

# 新潟高校青山同窓会主催 ‘05 青山学術文化講演会

幹事長 小崎 弘一

今年度は 10 月 22 日 (土)、昨年と同じく新潟高校視聴覚教室で、約 90 名の参加をいただいて開催した。新潟市教育委員会と新潟日报社さんから後援をいただいた。

今年度は 64 回卒の佐藤幸治さんと 75 回卒の田中純夫さんのお二方に講演をお願いした。

## お二方のプロフィール



佐藤 幸治さん

### 佐藤幸治さん

- 1937年 新潟県生まれ
- 1956年 新潟高校卒業
- 1961年 京都大学法学部卒業

### 経歴

- 司法試験委員
- 行政改革会議委員
- 中央省庁等改革推進本部顧問
- 司法制度改革審議会会長などを歴任

### 主著

- 憲法「現代法律学講座 5」  
(青林書院、第 3 版、1995 年)
- 憲法訴訟と司法権 (日本評論社、1984 年)
- 現代国家と司法権 (有斐閣、1988 年)
- 注解法律学全集 憲法 I - III  
(共著、青林書院、1994-1998 年)
- 日本国憲法と「法の支配」(有斐閣、2002 年)
- 憲法とその“物語”性 (有斐閣、2003 年)

### 現在

- 近畿大学法科大学院長
- 京都大学名誉教授



田中純夫さん

### 田中純夫さん

#### 経歴

- 1948年 新潟県生まれ
- 1967年 新潟高校卒業
- 1975年 東北大学大学院修士課程終了(哲学)

#### 登山歴

- 1983年 パミール レーニン峰(7,134m)  
コルジェネスフカヤ峰  
(7,105m)
- 1985年 青海省 カカサイジモンカ峰  
(6,178m)
- 1990年 パンジャブ・ヒマラヤ・ルパール谷  
マゼノ・パス(5,360m)  
シャイギリ・ピーク  
(5,971m) など

#### 訳書

- エリック・シンプトン  
「エヴェレストー1951年の偵察遠征」  
日本山岳会越後支部
- ジョージ・リー・マロリー  
「エヴェレスト〜1921年、1922年〜」  
日本山岳会越後支部

#### 主な論文 (山岳に関するもの)

- 「いわゆる『絶頂の超越』についての一試論」
- 「ヒマラヤ雑感」 など

#### 現在

- 新潟市自治振興課課長
- 日本山岳会会員
- 前新潟県山岳協会理事 (海外登山担当)

講演 1.

演題 「憲法」と「国のかたち」

佐藤幸治さん

- I はじめに
  - (1) 憲法改正をめぐる動き
  - (2) 尾崎弴堂（行雄）の演説（昭和 21 年）
- II 「憲法」の意味
  - (1) 「憲法」の様々な意味
  - (2) 「国のかたち」（司馬遼太郎）
- III 日本の「国のかたち」
  - (1) 日本の「国のかたち」
  - (2) 明治憲法、そして日本国憲法へ
- IV 1990 年頃より始まる諸改革
  - (1) 一連の諸改革
  - (2) 諸改革の狙いー「国のかたち」の再構築
- V 新たな「公共性の空間」の創設とわれわれの「幸福」
  - (1) 新たな「公共性の空間」の創設
  - (2) 「生命、自由及び幸福追求に対する権利」（憲法 13 条）の意味
- VI おわりに
  - (1) 「憲法改正国民投票法」の在り方
  - (2) 憲法改正に関する留意事項

『「constitution」を「憲法」と訳している。もともと「constitution」は「体質」とか「骨格」と言う意味である。「憲法」を定めるといふことも重要だが、いかに現実化しているかということが大事だ。司馬遼太郎が「この国のかたち」という本を著しているが、「constitution」は「国のかたち」であると考えたほうが、より明確であると思う。』

という基本的な考え方に始まり、硬くなりがちなテーマをわかりやすく噛み砕いてお話いただいた。



講演 2.

演題 未踏の崑崙へ

可可塞極（カカサイジモンカ峰）6178m 遠征

田中純夫さん

- 1 経緯
    - 日本山岳会と中国登山協会
  - 2 位置と地理的状況
    - 中国崑崙山脈中部 砂漠と草原と氷河の山
  - 3 登山概要
    - 1985 年 7 月～8 月
    - 7 月 24 日 成田発
    - 25 日 香港から 広州へ
    - 27 日 鄭州
    - 28 日 蘭州 登山隊現地集合
    - 29 日 西寧 隊荷が届かず停滞
    - 8 月 2 日 都蘭
    - 3 日 ゴルム
    - 4 日 ベースキャンプ設営
    - 5 日 これより登山活動
    - 8 日 ルート偵察を兼ねて
    - 5220 m 峰登頂
    - 19、20 日 第一次隊、第二次隊
    - カカサイジモンカ主峰登頂
    - 22 日 ベースキャンプ撤収
    - ゴルムへ
    - 23 日 都蘭
    - 24 日 西寧
    - 25 日 蘭州
    - 26 日 蘭州で登山隊解散
    - 27 日 西安
    - 自由旅行で史跡を巡る
    - 29 日 広州
    - 30 日 香港
    - 31 日 成田着
  - 4 当時の登山界の状況
    - アルパインスタイルとパイオニアワーク
  - 5 山、登山を巡る想い
    - 田中さんからはスライドを中心に遠征の様様をお話いただいた。登山ブームの昨今ではあるが、その先駆けとしての同窓生の挑戦の記録に勇気付けられた。
- 参加者の募集に当たって各期幹事の皆様からご協力をいただきました。紙面を借りてお礼申し上げます。